

宮城いきいき便り



ぴったりと息の合ったハーモニーを披露

「元氣・キラキラ・生きがいつくり、人生最高!!」をテーマに、宮城いきいき学園大崎校の第24回文化祭が10月14日、同校の学習会場である大崎市古川の大崎生涯学習センター（パレットおおさき）で開かれた。

開会式では学園生全員で「宮城いきいき学園の歌」を斉唱。副学園長で県社会福祉協議会の高橋信宏副会長兼専務理事が「少子高齢化が進み、人口が減少に向かう中、地方創生地域福祉の向上のためにも頼られる存在で

あつてほしい。文化祭を契機に、最高の人生を送れることにつながるよう期待しています」とあいさつした。

来賓を代表し、大崎市長の代理として高橋英文副市長の祝辞と、若生裕俊富谷市長、大橋信夫涌谷町長が激励の言葉を述べた。



学園生の力作がずらりと展示

展示スペースでは、学園生が日頃の学習活動や趣味などで行った絵画、写真、書、俳句や陶芸、工芸、洋服といった作品約200点が並べられ、来場者は作品の出来栄に見入り、感嘆の声を上げられた。

学習成果や趣味を発表

いきいき学園大崎校文化祭



力強いスイングで競技開始

宮城いきいき学園の卒業生が企画する「生きがい健康づくり地区大会」が先ごろ、県内4校で開かれ、それぞれの地域住民が参加してスポーツを楽しんだ。

登米・栗原地区大会は、大崎市田尻の加護坊パークゴルフ場で登米・栗原校の在校生と卒業生や同地区のパークゴルフ愛好者ら174人が参加した。

秋晴れの下プレーが始まり、参加者は好成績を目指し、日頃の練習の成果を発揮しようとする姿がうかがえた。

大会は好評プレーのたびに歓声が上がったり、バットを外すため息が出たりする中で繰り広げられた。当日はホールインワンが24ホールで記録されたほか、上位4人によるプレーオフはホールインワンで決着するなど、参加者の技量の高さがうかがえた。

ホールインワンに歓声

生きがい健康づくり登米・栗原大会



好天の中、はつらつとプレー

いきいき学園では、卒業生を「生きがい健康づくり推進協力員」に委嘱。学園卒業後も学園生活で得た知識や経験を生かし、地域のシニアのリーダーとして継続的に活躍してもらっている。本大会は、その活動の一つ。

大崎地区大会は大雨中止となったが、景品の抽選会が行われ、会場は盛り上がった。

仙南地区大会は、仙台から講師を招いての講話に続き、ニュースポーツの実技体験が行われ、参加者は楽しみながら交流を深めた。